

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		重症児デイサービスkokoro、tsubomi		公表日		2025年3月20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20		人数が多い時はベッドを動かしたり、ワゴンの位置を変えてスペースを確保している。長期の休み期間中は、教室等も利用してスペースは確保できている。	概ね適切だが、マットで過ごす子どもが多い時などはやや狭くなる。長期休みなどは狭くなる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	19		利用人数が多くなる場合は職員が多く配置されている。フロアには必ず看護師が待機している。利用児が多い時は、療育を工夫してよい療育が提供できるようにしている。	療育活動時は1対1以上に関われる日が増えていくが、夕方は手薄になりがち。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	19	1	余裕ある空間で過ごすことができている。フロア全体に目が届きやすく、スタッフ同士の情報共有もしやすい環境にある。仕切りドアも状況に応じてすべて開けたり、児発・放デイ・教室と仕切ることなどもできるなど調整できてよい。壁紙も海や森の生き物で、子どもは興味が湧く空間になっている。入浴する浴室、トイレは離れた場にあり、メリハリある空間になっている。バギーで安全に移動できる環境であり、テラスへも出入りしやすい。	廊下や通路に物が置いてあったり、通行の妨げとなってしまうことがあるので改善が必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。排泄介助もベッド上、室内で行うことができ、他利用者が不快と感ずってしまうことがあるので、改善が必要。	18	2	毎朝高頻度接触面と床の掃き掃除をしている。感染対策委員会を中心に作成した清掃表や提示物で周知も行い、それを元にしっかり清掃をして清潔を心掛けている。ワンフロアで目が届きやすく、活動に応じた空間の利用も支障なく行っている。気温に応じて室温・湿度の調整ができている。壁紙は明るく楽しい空間を演出している。空気清浄機・オゾン発生装置・加湿器などを使用している。	子どもの頭上に物があつたりするので見直すところがある。動ける児であっても、マット状で居続ける状況は少し改善できたらと思う。排泄介助もベッド上、室内で行うことができ、他利用者が不快と感ずってしまうことがあるので、改善が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	18	2	プライバシーが必要な時は、その環境づくりを行う話し合いもできており、パーティションなどで仕切ったり工夫しながら必要に応じ環境を整えている。体調不良時など少し離れた場所で行うなど環境設定ができている。訪問学級のための教室が併設されており、適切な空間で授業を受けられている。集中して食事したい時などに教室が空いていれば移動し使用することができる。プライバシーに配慮し、排泄や浣腸を実施する際は他の部屋で行うなど児童を尊重する対応が出来ていると思う。	なるべく個別の空間を作る配慮はしているが、完全な個別の部屋は難しい。トイレ空間等は発達段階に応じ配慮はしているが、未就学児やトイレ排泄ができない児に対するのプライベートゾーンの確保は厳しい。	
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	19	1	リーダー会議が定期的に行われており、積極的に業務改善がされている。職員1人1人が目標設定と振り返りを行い、それを基に面談を行っている。行事ごとの振り返りアンケートなど実施し、改善まで考える習慣がついていると思う。各委員会や、各部署毎に業務改善するための会議、話し合いや振り返りを実施している。職員向けの集合研修は全員参加し、目標の方向性の共通認識ができていると思う。	PDCAの考え方は大切であるが職員が参画しているまでにはなっていない。	

業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	1	保護者向け評価表を実施しており、その結果をホームページにて公開している。匿名での意見箱を常時設置している。 評価表だけでなく、保護者さんから訴えがあった時など話をよく聞き改善へつなげている。	評価表により意見等は把握できているが、改善に向けて職員で話し合う等はできていない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	1	毎月、各職種のリーダーによるリーダー会があり、日々のミーティングも頻回に行われている。 委員会や係などで話し合ったものを全員に周知することができる。 意見を出し合い、実施後の評価等も行っている。 意見が言い合えるような人間関係をつくれるように努めている。	機会が増えるといいかもしれない。 ミーティングに参加できるスタッフの意見が強く、その他スタッフは把握が少し難しい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	9		第三者による外部評価の全容について把握していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20		職種関係なく、様々な研修を受講する機会がある。研修後の報告会も実施されている。 定期的に勉強会を開催し自己研鑽に努めている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19	1	5領域に沿った支援プログラムが作成されている。	支援プログラムは作成していると思うが、公表されているかは把握できていない。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	19	1	保護者とモニタリングを行い、子どもと保護者の周囲の環境や訪問教育・支援学校の様子も含めた子ども達の情報を得たり、意向を聞き、アセスメントを行い、計画に生かしている。 職員の意見を基に追加、修正できている。 一人ひとりの状態や好みなど知れるよう関わり、個々の特性に合わせて子どもに適した計画がつけられている。	入職したばかりで、放課後等デイサービス計画作成に携わる機会がなかった。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18	2	計画書は、常にスタッフ全員が共有し、意見を出し合う場合が設けられている。 朝のミーティング時に話し合い、参加出来なかった職員は内容を確認し、サインをするようにしている。	意見交換の機会がもう少しあれば嬉しい。 入職したばかりで、放課後等デイサービス計画作成に携わる機会がなかった。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20		計画は皆が見やすいようにファイリングされ、共有されている。 支援の合間にそれぞれの計画書の目を通したり、スタッフ間で確認しながら支援を行っている。計画を意識した関りに配慮している。 支援の合間にそれぞれの計画書の目を通したり、スタッフ間で確認しながら支援を行っている。計画を意識した関りに配慮している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	3	利用日ではない日はどのような行動をしているのか、子どもの日々の状況を保護者に聞き取りしている。 利用児達の状況について日々多職種を介してアセスメント、検討を行い計画に反映している。	アセスメントツールはあるのかもしれないが、分からない。 標準化されたアセスメントツールは使用していない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	1	計画書に各項目毎に支援内容が設定されている。 項目ごとにねらいが設けられており、それにそった支援ができるよう意識を持っている。 学校卒業後や地域への移行支援、子どもの状態や家族の思いが考慮されている。	「移行支援」や「地域支援・地域連携」については、具体的な支援内容が設定されているのか分からない。 放課後等デイサービスガイドラインの全容について内容把握していなかった。

17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19	1	活動プログラムの立案は、主に保育士、リハとチームで行っている。予定表等を他の職種が見られるように（確認）できるようになっている。 メインとなる保育士が日によって異なり、分担して立案している。 療育ミーティングを行っており、多職種が内容に関する意見や話し合いなどできている。 季節のイベントでは担当が話し合いをしている。	事業所の大きなイベントでは全職員で行えているが、日々の療育は保育士が主に立案。他職種も意見を出し合えるようになるとよい。 もっと多職種と一緒に立てていきたい。 保育士や一部のスタッフに負担がかかってしまっているように感じる。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19	1	療育ミーティングなどを行い、多職種の意見を取り入れることで、固定化しないよう工夫している。 同じ活動が続かないようになっている。季節を感じられる活動プログラムもある。 同じ活動でも変化があるよう工夫している。 認知、社会性、五感等、あらゆる側面からの支援が考えられており、利用児に応じて前回の内容となるべく同じにならないよう対応している。 他事業所を参考にしたりもしている。	もっと多職種と一緒に立てていきたい。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	19		一人一人その子らしくできることを大切に、体調面も考え支援されている。 それぞれの伸ばしていきたい部分に焦点を当て、午前中は集団、午後は個別を基本に支援できている。 個別と集団活動各々のメリットを生かし、個々に応じた得意や不得意、反応に応じて計画作成支援が行われている。放課後利用児は個別で行っている。	状況に応じて支援はしているが、明確に分けて計画が作成されているか分からない。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20		朝のミーティングを行い確認している。また内容はノートに書き残し、後から出勤の職員も把握できるようにしている。 ミーティング等で話し合ったり、その日行う支援がホワイトボードに記入してあり、スタッフ一人一人に分かるようになっている。 その日に必要なケアや体調によって臨機応変に支援している。 保育士中心に打ち合わせし、行う前に適宜説明し行っている。	放デイについてももう少し詳細に打ち合わせしていけたらと思う。 保育士や療育に関わる人が多いセラピストを中心に行っているが、看護師はケアや送迎等もあり、関わっていない。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	8	必ずではないが、時間があるときに活動の記録を見ながら振り返りを行っている。また、気付いた点等共有している。 子どものできたこと、今後の展開について等様々な意見を共有している。 季節のイベントはできている。	振り返りができない日もある。半分は話し合う時間が取れない。その日中に10分でもいいので振り返りができれば良い支援につながって行くと思う。 紙面（記録）上での振り返り等の共有を図ろうとしているが、その日のうちに必ずはできていない。 集まって打ち合わせという形はしていない。 「必ず」「毎日」の振り返りはできていない。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20		1人で検証・改善するのではなく他職員の意見を取り入れている。 通所記録に活動の内容とそれに応じた子どもの反応を詳しく話して保護者につなげており記録として残っていると思う。 実施した内容は細かく記録できていない時は互いに声をかけあうことができている。 実施した支援について、記録を詳細に残すことで、改善の手立てとなっている。 通所記録はもちろんのこと、子どもの反応は記録できていて活動プランも記録に残している。	保護者向けの毎日の帳面にはその日の出来事を書いているが、検証、改善に適した内容ではない。計画や支援を日々記録して検証できていない。 リハに関しては専門的支援に入った際記録を残しているためそれを検証、改善につなげたい。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19	1	定期的なモニタリングが行われており、内容もスタッフ間で共有されておりその情報もふまえて行っている。 子ども達の変化に応じて見直しが行われている。	まだ定期的なモニタリングに携わる機会がなかった。

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	15	4	「自立支援と日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流の機会の提供」「余暇の提供」共に事業所内で創意工夫しながら行っている。	放課後等デイサービスガイドラインについて把握できていなかった。「4つの基本活動」が何かを把握していない。勉強不足。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	18	2	意思表示の反応が小さなお子さんでも出来る限り自己決定の機会を設けるようにしている。 視線やまばたき、身振り手振り等その子ができる強みを活かしている。 なんでも複数用意し選択してもらうよう、心掛けています。また、お天気札の選択を毎日行う事で自己決定する力を育てている。 利用児たちの一人一人の状態、性格について把握し、できる部分を伸ばしていけるように関わっている。	児童の「できること」の能力をスタッフ間でもう少し理解を深める必要があると感じる。 まずは子どもの反応を観察してからの介入に心掛けていますが、支援の工夫という点で個々のスタッフで差が出てしまうかもしれない。 業務が優先になりがちの部分が多く、もっと工夫するべきかと考える。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	19	1	代表や管理者または、日々の様子やその子の特徴をよく理解した者が参画している。	入職したばかりで各機関の全容について理解把握していない。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20		病院や学校、相談員など連携は密にできていると思う。	研修などでお互いの顔が分かると良い。 学校と情報共有し支援の統一など図れるとなお良い。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	20		事業所内で訪問学級も行っている点で情報共有もしやすい。また、通学も連絡調整は問題なくできている。	学校からの一斉メールは届いているが、保護者を介して知る情報も多く、さらに連携がとれるようになるとよい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14	6	就学前に利用していた事例はないが、複数の事業所を併用する場合は情報共有に努めている。	他の児童発達支援事業所との情報交換の機会を増やしたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	15	まだ移行した利用児さんはいない。卒業後について問題意識をもつようにしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	11		地域の児童発達支援センターについて理解できていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	20		民間学童MAPSさんと定期的に交流（クリーン作戦やイベント招待など）を行い、互いに良い刺激、相乗効果をもたらしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	14		把握できていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20		ゆっくり保護者と話す機会がなかなか無いが、朝の送迎時や通所記録、モニタリングなど利用児の状態について確認し、伝え合う機会がある。	家での様子をじっくり聞ける機会があまりない。 情報共有に努めているが、共通理解に至っているか分からない。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	11	家族参加の研修はないが、必要に応じて情報共有、提供している。	ペアレントトレーニングは行っていないが、機会を設ける必要もあると思う。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20		代表や管理者が見学・契約の際に説明している。 保護者に支援プログラムについて書面や対面で分かりやすい説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19	1	家族の意向を聞くために、対面してのモニタリングの機会を設けている。 その子がその子らしく過ごしていけるように子どもを中心とした計画を作成している	入職したばかりであり、放課後等デイサービス提供作成に携わる機会がなかった。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	18	2	支援内容の確認と要望について意見をもらえよう書面に対応している。 書面で同意を得ている。	保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得る機会がなかった。 計画を示しながら対面での説明は行っていないように思う。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20		家族の不安や悩みに耳を傾け、相談の内容に応じ各専門のスタッフが対応できるように支援している。 送迎等で相談を受けた際、答えられない事は一度皆で話し合い回答している。 定期的に面談を実施している。電話でも応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	20		年1回きょうだい児をメインとしたイベントなど、きょうだい同士の交流が行える場を設けている。 夏祭り・BBQやお楽しみ会などを開催し、家族交流する機会がある。	保護者の交流の機会は夏祭りやお楽しみ会以外では事業所から設けることはしていない。 今後保護者の交流目的のイベントを企画してみるのも良いかと思う。 少人数の集まりの開催などがあるとまた交流が深まると思う。 父母会はない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19	1	上司に報告し、同じことが起こらないよう、職員間での共有・対策をしている。 意見を言える場としてQRコードから入力できる（ご意見箱の設置）。 苦情対応マニュアルが作成されている。	苦情対応について関与する機会がまだなかった。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20		当事業所の活動内容や行事、新しいスタッフ紹介、写真などをのせweighty通信を毎月発行している。 ホームページやSNSを利用して活動の様子を情報発信している。 グループLINEがあり連絡体制などが整っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19	1	個人情報が含まれる手紙はダブルチェックし連絡ファイルに入れている。 写真撮影時にはホワイトボードの名前などの個人情報が映り込みにも注意している。 個人情報書類は鍵をかけて保管し、書類を外に持ち出さないようにしている。 デジカメや私物の管理を十分に行っている。 仕事以外の場所では話さない。	自分ももっと意識を高めなくてはいけない。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20		目線や表情や動作を通して気持ちを汲み取る配慮を行っている。 視覚的、感覚的ツール、文章化、図式式などいろいろな手段を用いて行っています。 保護者からよりよい意思疎通や情報伝達の方法がないか情報共有している。 子供達には優しく分かりやすく話しかけるようにし、関わる前には必ず何をするか伝えるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13	7	定期的に民間学童を利用している児童と交流を行い、地域に根差した支援を行っている。 地域で開催しているイベントに行ったり、近隣のゴミ拾いをしたり、地域との関わりを増やしている。 行事には招待はしていないが、キッチンカー導入の日は近所の方々も利用している。	地域住民を招待するようなイベントは行ったことがない。 現在招待する機会はないが、今後そういった機会であらうと良い。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	1	状況に応じた訓練を委員会を中心に実施している。 不審者、地震、火災の避難訓練は実施している。 訓練後は必ず振り返りを行い、訓練の様子も掲載している。 地震を想定した訓練、消火器の使い方、火災訓練、防犯訓練など積極的に行っている。 訓練後は必ず振り返りを行い、訓練の様子も掲載している。	防犯・災害以外にも感染症発症時などの訓練を行っていく必要がある。 感染症発症時の訓練は未だ行えていない。 マニュアル作成してあるが、職員や家族への周知までは不十分な部分はある。 マニュアルは他の職員も目を通す機会がある。	

47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19	1	個別の避難方法を記載した一人一人救出方法を表示している。 消防士を招いての訓練も行っている。 災害対策委員会を中心に訓練の計画を立て定期的に実施している。 訓練に参加できなかった人へも動画などで情報共有の機会がある。 災害時の持ち出し物や人員の把握も担当者を決めて毎日行っている。	入職したばかりであり、緊急時の避難訓練に参加する機会がなかった。 BCPについては良く分かっていない。
48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20		医師指示書、お薬手帳の控えを確認している。 内服内容の変更など状況が変わった場合は伝えてもらうことになっており、お薬手帳を提出していただいている。 てんかん発作の種類は職種関係なく把握し、異変時には看護師を呼ぶ。	予防接種の状況は把握していないように思う。
49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	17	3	情報はカルテに記載してあるため、各自、目は通している。 指示書はすぐに確認出来、対応できる状況である アレルギー対応が必要な場合は、職種関係なく把握している。	
50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17	2	災害対策委員会がある。 毎月、安全点検を実施しており、不備があった場合は必ず上司に報告し改善に努めている。 担当者が研修を受けている。 安全計画を作成し、計画に沿って、点検や訓練を行っている。	安全計画の作成はされているかもしれないが、その他の取り組みについてはまだ不十分である。 安全管理に必要な研修や訓練に参加する機会がなかった。
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	3	緊急時、家族と密に連携を図ることができるよう、安全計画に基づいて行動している。 災害時の対応や連絡先などを事前に教えてもらい、定期的に変更はないか確認を行っている。 避難訓練・安全点検実施後は、結果をホームページや通信に掲載している。	非常時の取り組み内容を把握していない。 安全計画に基づく、取り組み内容が家族へ周知されているか分からない。
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20		ヒヤリハットやインシデントが起きた後は話し合いを行い、再発防止に努めている。 ヒヤリハット事象を積極的に記入、全職員で共有し、再発防止についても提示し、確認できている。 朝のミーティングで改善点を話している。 すぐ目を通せるようにファイルで共有されている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19		虐待防止委員会が設置されている。 委員会を中心に外部の研修に参加し、職員にも意識向上できるように共有している。 職員が虐待の研修に参加したり、アンケートを実施している。 内容を周知、虐待につながる言葉かけなどみんな注意できている。 虐待防止委員会を中心に学ぶ機会が増えた。	研修は定期的に機会を確保し、意識を改められると良い。 在籍中にはまだないため分からない。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	20		保護者に了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載している。 身体拘束の必要性について十分にアセスメント、検討を行い、計画に反映した上で利用児にとって最善の支援を行っている。 日々の記録にもバギー乗車していた時間、腕輪・ミトン使用など細かく書いている。	